

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/地域看護学】

科目名		ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域看護学実習		NSP34_001	必修	2	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
馬淵 路子 他		305	m.mabuchi		金曜日 12:20～13:00	
授業の目的・概要		病気や障害を持ちながらも、自分らしく、また、家族等が望む療養生活の実現に向けた看護援助の実際を学び、多様化する看護場面における看護の役割を明らかにする。具体的には療養場所の移行に向けた退院支援や在宅における医療的管理・日常生活援助、さらに家族等も含めた健康で安全な生活を維持できるような支援の実際をこれまで学んだ地域包括ケアシステムに照らして理解していく。在宅療養者が最期まで住み慣れた地域で納得できる生活が送れるように看護職に何ができるのか、多職種と協働する中で看護職に求められる資質や技術を学修する。				
学 習 上 の 助 言		療養者や家族が望む生活を支援する看護について深く考え学んでほしい。そのためにも、これまで学んだ地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ・Ⅱの復習をしておくことが望ましい。				
教 科 書		ナシंगा・ガラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア /編:臺由佳 他 /パブリック出版 /2025 ナシंगा・ガラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 /編:臺由佳 他 /パブリック出版 /2025				
参 考 書		これからの地域看護学：多様性と包括性をふまえた看護実践に向けて /渡邊多恵子 他/朝倉書店/2025				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	在宅場面で行われる看護や対象者に興味を持ち、主体的に実習に取り組むことができる			NS(1)(5)		
②	地域で生活する療養者やその家族との関わりを通して、看護に求められるニーズの多様性と地域看護活動の特性を理解できる			NS(2)(3)		
③	在宅療養を支える制度や社会資源を把握し、家や地域で療養生活を継続させる方策を考えることができる			NS(2)～(4)		
④	地域看護における関係機関や関係者との連携や協働の重要性を理解し、関係機関との調整において看護師が果たす役割を理解できる			NS(2)～(4)		
⑤	地域ケアシステムの中で看護職が果たす役割を知り、実習で経験した地域包括ケアシステムを評価・検討することができる			NS(1)～(5)		
授 業 計 画						
1. 実習時期と期間 3 年次後期 2 週間						
2. 実習施設 おおくに訪問看護ステーション、つる訪問看護ステーション、甲府訪問看護ステーションすずかけ、訪問看護ステーションほほえみ						
3. 実習方法						
1) 訪問看護師の訪問に同行する 訪問看護ステーションのオリエンテーションを受ける 訪問看護師の訪問に同行し、療養者宅へ訪問する 同行した看護師の指導のもとで援助に参加する 同行訪問事例の実習記録をまとめる						
2) 訪問看護における看護援助を実施する（演習） 事例をもとに看護過程を展開し、看護計画の立案、実施をする						
3) 退院支援演習 ロールプレイ等を用いた演習を行う						
4) 日々の学びを実習記録にまとめる						
学習課題・学習時間（時間）						
・事例演習や日々の学びを記録にまとめる中で、地域看護の特性を理解し、地域における看護活動の特性を考察していく。 ・実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。						
必要時間： 10 時間						

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/地域看護学】

総合評価割合（％）			達成度評価					
			試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
			0	20	30	30	20	100
総合 力 指 標	知識・技術力		0	5	0	5	0	10
	思考・推論・創造する力		0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ		0	0	10	0	5	15
	発表・表現伝達する力		0	5	0	0	0	5
	コミュニケーション力		0	0	10	0	5	15
	取組みの姿勢・意欲		0	0	10	10	10	30
	問題を発見・解決する力		0	0	0	5	0	5
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習の学びをまとめ翌日提出する。 実習終了時には「実習のまとめレポート」をまとめ指定期日までに提出する。 知識・思考・推論・創造する力を総合的に評価する。					「本日の記録」をもとに、学生の理解度を確認し、口頭もしくはコメントにてフィードバックをする。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
成果発表	①	✓	看護援助やロールプレイなどの発表、カンファレンスを実施する。発表の取り組みの姿勢から評価する。					発表後に講評を行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
ポートフォリオ	①	✓	日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。					内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①	✓	学生が到達すべき行動目標①～⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。					学生に自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
備 考								
他 担 当 教 員		望月 宗一郎、伊丹 幸子						
教 員 の 実 務 経 験		担当する教員は、保健所・市町村における行政保健師活動および、病院における外来業務や医療連携室での退院支援や療養生活相談等の経験を有する。						
実践的授業の内容		看護師や保健師としての経験をもとに、地域で生活する対象者の健康を支える看護の実際を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指す。						
そ の 他		感染予防行動を徹底するとともに、自身の体調管理を心がけて実習に臨むこと。 実習施設では、実習指導者の指示に従って行動すること。						